

(別添2)

## 事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 通所介護  
事業所名(施設名) デイサービスあおば

第三者評価の判断基準

- a・・・着眼点をすべて実施している状態
- b・・・着眼点が一つでも実施していないものがある状態
- c・・・着眼点を一つも実施していない状態  
実施していない状態  
実施している状態

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1 支援の 基本	利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	a)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 利用者の心身の状況、ADL、睡眠・食事・排せつ、暮らしの意向、これまでの環境(物的・人的)、生活習慣等の把握をしている。</li> <li>2 利用者一人ひとりの暮らしの意向を理解し、利用者一人ひとりに応じた生活となるよう支援を行っている。</li> <li>3 利用者一人ひとりに応じた生活となっているかを検討し、改善する取り組みが組織的に継続して行われている。</li> <li>4 サービス提供場面において、自立に配慮した援助を行っている。</li> <li>5 自立、活動参加への動機づけを行っている。</li> <li>6 利用者の趣味、興味、希望を把握し、活動に反映するとともに複数のメニューを用意している。</li> <li>7 家族、ボランティアや地域住民の参加を得ることなどにより、活動の多彩化を図っている。</li> <li>8 買い物、外出、地域の行事への参加など社会参加に係るプログラムを導入している。</li> <li>9 利用者の家庭での生活、心身の状況を考慮し、利用者一人ひとりに配慮して活動に参加できるよう工夫している。</li> </ol>	<p>フェイスシートあり。 担当マネジャーからの情報提供あり。 担当者会議等にて情報共有している。</p> <p>訪問チェックシート・興味関心チェックシート これからできるようにになりたいこと、実現可能な目標等確認している。</p> <p>通所計画書、調査、モニタリングを行い カンファレンスで確認し評価している。</p> <p>可能な目標(短期目標)に向かって 自立支援に取り組んでいる。</p> <p>興味関心チェックシートを基に個々の得意な趣味、 興味を持っていること(編み物、調理等)を教え合う ことで活動の拡大に繋がっている。</p> <p>興味関心チェックシートを基に運動であれば 各種マシーン、集団体操に取り組んでいる。</p> <p>ボランティアによるマジックショー、踊り、小学生による 3カ月に1回の定期訪問、お花プランター、クリスマス等 イベント等多彩に取り組んでいる。</p> <p>外出希望調査,出企画年4回行い、好きなこと を2つ選択し、実施している。</p> <p>評価票に基づき、家で自らできる事を把握し 自らの洗濯物たたみ、家族に畑仕事のアドバイ ス等、張りのある生活が送れるよう支援し ている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	1	利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	a)	<p>10 利用者の考えや希望を十分に聴き取れるよう、さまざまな機会、方法でコミュニケーションを行っている。</p> <p>11 利用者の思いや希望を聴きとったり読みとったりして、その内容をケアに生かしている。</p> <p>12 日常生活で援助を行う際に、コミュニケーションの重要性を認識し、話しかけている。</p> <p>13 話すことや意思表示が困難など特に配慮が必要な人には、個別の方法で行っている。</p> <p>14 利用者への言葉づかいに対する配慮や節度ある接し方がなされている。とくに自尊心を傷つけるような言葉づかい、幼児語の使用、指示的な言葉を慎んでいる。</p> <p>15 利用者への言葉づかいや接遇に関する、継続的な検討や研修を実施している。</p> <p>16 会話の不足している利用者には特に気を配り、日常生活の各場面でも話をしてもらえるようにしている。</p> <p>17 利用者が話したいことを話せる機会を作っている。</p>	<p>訪問チェックシート・興味関心チェックシート。個別リハビリやケア時に声がけし詳細に聞き取りを行っている。</p> <p>レクリエーション時、個別の対応時に職員は寄り添いの気持ちで話し合い、その人に応じたケアを行っている。</p> <p>職員は寄り添いの気持ちで話し合い、対応している。</p> <p>文字盤、筆談、ジェスチャー等、日々の状態の中で本人の思いを引き出すよう努めている。</p> <p>月1回職場会、全職員学習会で勉強し周知している。</p> <p>月1回職場会、全職員学習会で勉強し全員周知している。</p> <p>話せない利用者に対しては、何か好きなことを発せられるように努めている。月2回言語聴覚士による失語症利用者ケアを実施している。練習プリントを家に持ち帰り家族と一緒にやっている。</p> <p>本人の関心ごと等、朝会の時に話のできる場を設けている。</p>
	2 身体介護	入浴介助、清拭等を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	<p>18 利用者の心身の状況や意向に合わせ、入浴形態・方法を採用し、入浴介助や清拭等の方法を工夫している。</p> <p>19 入浴の誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。</p> <p>20 入浴を拒否する人への誘導や介助方法を工夫している。</p> <p>21 入浴前の浴室内の安全確認（湯温、備品等）を行っている。</p> <p>22 脱衣室等の室温管理を行っている。</p> <p>23 入浴後は、水分摂取、スキンケアを行っている。</p>	<p>身体状態の評価を行い、職員は統一した対応を行っている。自らできる事、介助すること等詳細に確認している。</p> <p>6月にカーテンの増設。一人ずつ入れるように工夫し羞恥心に配慮し安心して入浴ができる。評価の結果、特浴から一般浴に移行し対応している。</p> <p>声がけを促し、時間を変更する等の工夫をし、入っていただいている。</p> <p>湯温を測っている。滑り止めマット、シャワーチェア等、必要な物を確認し、安全確認を行っている。</p> <p>設定室温を維持し裸身時の快適空調を図っている。</p> <p>医師指示により入浴後、保湿剤、発赤等に対しては軟膏塗布の実施。入浴直後にはお茶、水分補給を行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2			<p>24 入浴の可否の判断基準を明確にし、入浴前に健康チェックを行い、必要に応じて清拭等に代えるなどの対応をしている。</p> <p>25 入浴介助を安全に実施するための取り組みを行っている。</p> <p>26 浴槽は、機械浴、リフト浴、一般浴、個浴等、いくつかの種類が用意されている。</p> <p>27 シャワーチェア、その他の介護機器が用意されている。</p> <p>28 利用者が自力で入浴できる場合でも、安全のための見守りを行っている。</p> <p>29 感染症、心身の状況や意向等を踏まえて入浴順の配慮を行っている。</p> <p>30 家庭での入浴を安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>バイタルサインチェックを行い、主治医からの入浴可否指示に従い看護師が判断し、入浴が行えない時は、清拭、着替え等を行っている。</p> <p>入浴動作の評価を行い、麻痺、躓きの状態等確認し対応している。</p> <p>機械浴、個浴等が用意されている。</p> <p>シャワーチェア、手すり、浴槽台等が用意されている。</p> <p>全く一人のことはなく、見守り、声がけを行っている。</p> <p>介護支援専門員からの情報提供書を基に、入浴順に繋げている。</p> <p>自宅での入浴希望者には、機能訓練士、作業訓練士等が自宅訪問し介護方法、シャワーチェア等の介護機器の選定等助言し、その旨を介護支援専門員と連携を図っている。</p>
		排せつ介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	a)	<p>31 利用者の心身の状況や意向を踏まえ、排せつ介助の方法を工夫している。</p> <p>32 排せつの自立に向けた働きかけをしている。</p> <p>33 必要に応じ、尿や便を観察し、健康状態の確認を行っている。</p> <p>34 排せつの誘導や介助にあたっては、利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、環境・介助方法等の工夫を行っている。</p> <p>35 利用者が気兼ねしないように手際よく、必要に応じて声かけを行いながら介助している。</p> <p>36 トイレ（ポータブルトイレを含む）は、衛生や臭いに配慮し、清潔を保持している。</p> <p>37 冬場のトイレの保温に配慮している。</p>	<p>動作の評価を行い、職員は統一した対応を行っている。自らできる事、介助すること等詳細に確認している。</p> <p>できる動作を評価の時に確認し、自立に向けた働きかけを行っている。</p> <p>家族からの情報もある。排せつ介助した職員が気づき、看護師に伝え看護師と共に観察している。</p> <p>異性介助を拒む利用者には同性介助を行っている。排せつ中は一人になりたい利用者に対しても対象者は配慮している。</p> <p>ナースコール等で知らせることができない場合は適宜声がけを行い、評価を基に介助方法を工夫している。</p> <p>トイレの場所は工夫されており、離れた場所にありフロアに臭いはない。適宜掃除を行っているが、毎日夕方念入りの掃除を行っている。</p> <p>便座ヒーター、空調を管理している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2			<p>38 トイレ内での転倒、転落を防止する等、排せつ介助を安全に実施するための取り組みを行っている。</p> <p>39 おむつ・おむつかバー、便器等は、利用者に適したものが使用できるよう準備している。</p> <p>40 おむつ交換を行う際には、皮膚の観察、清拭等を行っている。</p> <p>41 尿意・便意の訴えやおむつ交換の要望に対して、できる限り早く対応できるようにしている。</p> <p>42 家庭での排せつを安全で適切なものとするため、利用者・家族に助言・情報提供している。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>評価に基づき1人介助、2人介助等必要な介助を行っている。</p> <p>便器は麻痺の状態により右用、左用に分かれているので適したものを使っている。</p> <p>オムツ交換時は汚れた部分の清拭、発赤等皮膚状態を観察し必要時は看護師に報告している。</p> <p>訴え時、即対応している。</p> <p>評価を基に安全な排せつ時の介助方法や漏れないようおむつのあて方等を助言し、介護支援専門員に適宜報告している。</p>
		<p>移乗、移動を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	a)	<p>43 利用者の心身の状況、意向を踏まえ、できるだけ自力で移動できるよう支援を行っている。</p> <p>44 移乗・移動の自立に向けた働きかけをしている。</p> <p>45 移乗・移動の介助の安全な実施のための取り組みを行っている。</p> <p>46 使用している福祉用具が、利用者の心身の状況に合っているかを確認している。</p> <p>47 福祉用具に不備はないか等の点検を常時行っている。</p> <p>48 移動に介助が必要な利用者が移動を希望した際に、できる限り早く対応できるようにしている。</p> <p>49 移乗、移動している本人だけでなく、他の利用者の安全にも配慮している。</p> <p>50 車イスや杖などを利用する場合に、移動しやすい環境整備を行っている。</p> <p>51 利用者の心身の状況に合わせた福祉機器、福祉用具を準備している。</p>	<p>評価を行い、自ら行えることが拡大に繋がる自立支援に向けて介助を行っている。</p> <p>理学療法士、作業療法士により評価し車いす介助から自走や歩行器使用し介助歩行、移乗全介助から手すりを使用し一部介助等自立に向け取り組んでいる。</p> <p>評価をし、膝折れ等、危険なポイントを職員は周知し介助を行っている。</p> <p>使いやすさ、適しているかを使用中の状態を見て、合っていない場合は介護支援専門員に提案している。</p> <p>不備なく安全に使用できるように随時確認している。月1回機能訓練士が定期的に確認している。</p> <p>移動希望時、希望に添って速やかに対応している。</p> <p>後ろ向きに移動する利用者もいるので声がけしたり止めたり、他の利用者の安全確保を行っている。</p> <p>段差はなくフラットになっている。車イス、杖でスムーズに移動できるスペースが確保されている。</p> <p>状態に合わせ必要な用具は取り揃えている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	2			<p>52 送迎サービスは、心身の負担軽減、利用者の希望、安全に配慮しながら実施している。</p> <p>53 家庭での介護を安全、適切に行うため、利用者・家族に移乗、移動に関する助言や福祉用具の利用についての情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>医療依存度の高い利用者には看護師が付き添い、介助している。ルート順を体調に合わせて対応している。</p> <p>自宅に出向き、移乗方法等を一緒に行い、介護用品、福祉用具の説明を行い、必要時は介護支援専門員に提案している。</p>
		褥瘡の発生予防を行っている。	a)	<p>54 皮膚の状態確認、清潔の確保の方法など、褥瘡の予防について、標準的な実施方法を確立している。</p> <p>55 利用者の心身の状況に応じた体位変換や姿勢の変換を行っている。</p> <p>56 必要に応じ、マッサージの実施、軟膏等の塗布を行っている。</p> <p>57 傷や皮下組織のずれが起きないように安全に介助している。</p> <p>58 標準的な実施方法について職員に周知徹底するため、研修や個別の指導等の方策を講じている。</p> <p>59 家庭での褥瘡予防を適切に行うため、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容等については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>皮膚状態の確認。褥瘡のある利用者には看護師が処置を行っている。</p> <p>車イスの角度、クッション等の工夫、体重が分散できるように工夫している。移乗時は慎重に行っている。</p> <p>看護師により血流促すようマッサージ、軟膏等の処置を行っている。</p> <p>褥瘡に注意し介助は2人でやっている。</p> <p>一覧になっている表を基に職員に周知している。処置変更時はカンファレンスを開き徹底して行っている。1年に1回褥瘡研修会を行っている。</p> <p>看護師が処置を行っている。その助言を家族、介護支援専門員に伝えている。必要に応じて自宅訪問しポジショニング、ベッドマット等介護用品について助言している。</p>
	3 食生活	食事をおいしく食べられるよう工夫している。	a)	<p>60 利用者の希望や好みを聴き、献立に反映させている。</p> <p>61 食材に旬のものを使用するなど、献立に変化をもたせるよう工夫をしている。</p> <p>62 料理にあった食器を使ったり、盛り付けの工夫をしている。</p> <p>63 適温で食事を提供している。</p> <p>64 利用者の状況に応じた、食堂の雰囲気づくりを工夫している。</p>	<p>事前情報をフェイスシートに、禁止食品、嫌いな食品等の聞き取りを行い献立に繋げている。</p> <p>旬の野菜等、食材を取り入れて工夫している。季節感のあるメニュー、食事を提供している。</p> <p>食器は陶器を使用し、彩り良く食欲をそそるよう工夫している。</p> <p>熱過ぎず、冷めた場合は温め直し提供している。</p> <p>テーブルに切り花を置く等の雰囲気づくり、介助を要する人、自力摂取、時間がかかる人等各自の希望に添って工夫している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3	<p>食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。</p>	a)	<p>65 座る席や一緒に食べる人について利用者の意向を聞き、テーブルや席の配置を配慮している。</p> <p>66 利用者の嚥下能力に合わせた飲み込みやすい食事（形状や調理方法）を工夫して提供している。</p> <p>67 利用者自身で行える範囲を把握し、自分でできることは自分で行えるよう支援している。</p> <p>68 できる限り利用者のペースで食べられるように工夫するとともに、利用者の身体に負担がかからないよう配慮している。</p> <p>69 嚥下しやすいようにできるだけ座位をとるなど、利用者の食事時の姿勢に常に配慮している。</p> <p>70 誤嚥、喉に詰まったなど食事時の事故について、対応方法を確立し、日頃から確認、徹底している。</p> <p>71 食事、水分の摂取量を把握し、食事への配慮、水分補給を行っている。</p> <p>72 栄養士や医療スタッフと連携し、利用者の心身の状況に合わせ、栄養面・形態に配慮した食事を提供している。</p> <p>73 経口での食事摂取が継続できるようにするための取り組みを行っている。</p> <p>74 家庭での食事や水分摂取に関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>大勢で食べたい人、静かに摂りたい人等、各自の希望に添って工夫している。</p> <p>事前の情報として本人、家族から聞き取り、注意点等を聴取し食事形態、嚥下状態を把握し対応している。</p> <p>自分でできることを最大限に行えるように声かけ、見守りを行っている。</p> <p>1人ひとりのペースを把握している。食事時間のかかる人、介助を要する人は姿勢、場所等工夫している。</p> <p>クッション等で体位を確保し不安定な姿勢にならないよう配慮している。介助のペースは本人に合わせている。</p> <p>消防署員に講師依頼し学習会を行っている。安全対策として年2回行っている。マニュアルに沿って確認している。</p> <p>食事摂取量は記録に残す。来所時、入浴後、お茶の時間等こまめに行っている。水分制限の人には看護師が計量カップで測り対応している。</p> <p>聞き取りの中で疾病、嚥下状態、アレルギーや制限をしなければならぬ事を把握し栄養士等と連携している。</p> <p>咀嚼、むせや嚥下状態を把握し言語聴覚士の対応、アドバイスがある。</p> <p>日々の食事状態を家族に伝えたり、家での食事摂取量等情報共有している。必要時は言語聴覚士の助言を家族、介護支援専門員に連絡している。</p>
		<p>利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。</p>	b)	<p>75 利用者の口腔清掃の自らの程度を把握している。</p> <p>76 一人ひとりに応じた口腔ケアの計画を作成し、実施、評価・見直しをしている。</p> <p>77 歯科医師、歯科衛生士の助言・指導を受けて、口腔状態および咀嚼嚥下機能の定期的なチェックを行っている。</p>	<p>情報収集し、本人にできることを評価し把握している。</p> <p>個々の口腔ケアの実施、評価している。歯科医師、歯科衛生士の訪問によりアドバイスを受けている。</p> <p>歯科医師、歯科衛生士による助言は受けているが定期的なチェックは今後取り組んでいく予定である。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	3			<p>78 口腔機能を保持・改善するための体操（口腔体操等）を行っている。</p> <p>79 職員に対して、口腔ケアに関する研修を実施している。</p> <p>80 食後に、利用者の状況に応じた口腔ケアおよび口腔内のチェックを行っている。</p> <p>81 家庭での口腔ケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p>	<p>昼食前に毎回実施している。</p> <p>機能訓練士等が講師となり、実技による研修を行っている。</p> <p>口腔内チェックを行い、磨き残しがあれば介助を行っている。</p> <p>磨き残し部分の介助方法、誤嚥の恐れのある人に対しては言語聴覚士が図に示す等の工夫をし家族に分かり易く情報提供を行っている。</p>
	4 認知症ケア	認知症の状態に配慮したケアを行っている。	a)	<p>82 利用者の日常生活能力、残存機能の評価を行っている。</p> <p>83 周辺症状を呈する利用者には、一定期間の観察と記録を行い、症状に合わせたケアや生活上の配慮を行っている。</p> <p>84 あらゆる場面で、支持的、受容的な関わり、態度を重視した援助を行っている。</p> <p>85 利用者が日常生活の中でそれぞれ役割（家事等）が持てるように工夫している。</p> <p>86 職員に対して、認知症の医療・ケア等について最新の知識・情報を得られるよう研修を実施している。</p> <p>87 医療スタッフ等との連携のもと、周辺症状について分析を行い、支援内容を検討している。</p> <p>88 利用者一人ひとりの症状に合わせ、個人あるいはグループで継続的に活動できるよう工夫している。</p> <p>89 抑制・拘束は行っていない。やむを得ず実施する場合には、必要な手続きをとっている。</p> <p>90 認知症高齢者の家族会等家族支援のための会や、その他社会資源を家族に紹介している。</p>	<p>利用者が自ら行えること、行えそうなことを把握し、残存能力が発揮できるよう努めている。</p> <p>その人のパターンを把握、記録を行いケア時の配慮に繋げている。</p> <p>本人の気持ちを受け入れている。屋外に出たい時であれば、散歩に出かけ、落ち着くまで一緒に行動する等の援助を行っている。</p> <p>状態把握し、野菜を切る、洗濯物をたたむ等、役割が持てるように本人が行えることを工夫している。</p> <p>実務者研修を受けた職員が、職員会議等で内容を報告し全員が周知している。</p> <p>看護師等より医療面での情報を基に症状を理解し支援内容を職員が共有している。</p> <p>ケース検討を踏まえ症状を理解し、支援内容を職員が共有し、本人が関心を持っていること（例えば俳句を作る等）を継続している。</p> <p>抑制、拘束は全く行っていない。必要時は同意書等手続きを行う。</p> <p>同市の認知症家族の会、家族に対応方法、個別ケア（園芸、手芸等）社会資源等の情報共有に繋げている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	4	認知症高齢者が安心・安全に生活できるよう、環境の整備を行っている。	a)	<p>91 認知症の理解やケアに関して、利用者・家族に助言や情報提供を行っている。また、助言した内容については、必要に応じて、介護支援専門員等に報告・連絡している。</p> <p>92 サービス利用時の様子を家族に伝えるなどして、より良いケアの方法を家族と共有するようにしている。</p> <p>93 利用者が安心・安全で落ち着ける環境となるよう工夫している。</p> <p>94 利用者の行動が抑制されたり拘束されたりすることのないよう、環境に十分な工夫をしている。</p> <p>95 危険物の保管、管理が適切に行われている。</p> <p>96 異食や火傷等の事故防止のため、片付け、清掃が行われている。</p> <p>97 共有スペースも、認知症高齢者が安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。</p> <p>98 トイレ・風呂等、一目でわかるような表示をする等の工夫を行っている。</p>	<p>1人ひとりのケアについて通所介護利用時の状況を家族と情報共有し助言を行っている。必要時は介護支援専門員に連絡している。</p> <p>連絡ノート、電話連絡、訪問等にてケア内容を家族と共有している。</p> <p>テーブル、イス等の配置を工夫し静かな場所、談話ができる場所、本人が好む物を近くに置く等、状況に適した環境を工夫している。</p> <p>利用者が自らのペースで制限なく行動できるような環境が確保できている。歩きたい時には一緒に散歩を行う等工夫している。</p> <p>認知症高齢者が安全に過ごせるよう、はさみ等は慎重に扱っている。</p> <p>事故防止のため基本、口に入るような小さい物、高温となるものは置かない対応をしている。</p> <p>共有スペースは、認知症高齢者が安心して過ごせる環境づくりの工夫を行っている。</p> <p>トイレ表示の字の大きさ、風呂はのれんで分かり易く表示されている。</p>
	5 機能訓練、 介護予防	利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	a)	<p>99 一人ひとりに応じた機能訓練のプログラムを作成し、実施、評価・見直しをしている。</p> <p>100 介護予防活動も計画的に行い、評価・見直しをしている。</p> <p>101 日々の生活動作の中で、意図的な機能訓練・介護予防活動を行っている。</p> <p>102 利用者が主体的に訓練を行えるように工夫をしている。</p> <p>103 利用者の状況に応じて、専門職（理学療法士、作業療法士等）の助言・指導を受けている。 ここで「等」は、言語聴覚士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、看護師を指す。</p>	<p>計画書を作成し、プログラムに沿って行い評価の結果見直しを行っている。</p> <p>法人でのHPH活動を行っている。</p> <p>自主トレ、動ける人は普段の生活の中で行っている。</p> <p>自主トレカード等、主体的に行えるように工夫している。</p> <p>理学療法士、作業療法士等の助言のもと自主トレカードを作成し、状況に添った指導を受けている。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	5			<p>104 認知症の症状の早期発見に努め、介護支援専門員を通して医療機関等につないでいる。</p>	<p>家族と過ごし方で困っていること、変化に気付いたこと等情報共有し介護支援専門員に相談し、医療機関に繋いでいる。</p>
	6 健康管理、 衛生管理	<p>利用者の体調変化時に、迅速に対応するための手順が確立している。</p>	a)	<p>105 利用者の体調変化や異変の兆候に早く気づくための工夫をしている。</p> <p>106 利用者の体調変化に気づいた場合の対応手順、医師・医療機関との連携体制を確立している。</p> <p>107 職員に対して、高齢者の健康管理や病気、薬の効果や副作用等に関する研修を実施している。</p> <p>108 体調変化時の対応について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p>109 利用者ごとに看護・介護職員が適切に服薬管理または服薬確認をしている。</p> <p>110 健康状態の記録を行っている。</p> <p>111 迎え時に、その日の体調等について、家族から情報を得ている。</p> <p>112 利用開始時・終了時には、必ず健康チェックを行っている。</p> <p>113 異変があった場合には、家族、医師、または介護支援専門員に連絡する体制を確立している。</p>	<p>来所後バイタルサインチェック等を行い健康状態を把握している。</p> <p>体調の変化に気づいた時は看護師に報告し主治医に報告し指示を受けている。</p> <p>委員会を通し、薬局で勉強会を開いている。</p> <p>マニュアルがある。 ペースメーカーが入っている、バイタルが変動し易い等、状態を把握し共有している。</p> <p>お薬手帳等で飲んでいる薬を確認している。 看護師により服薬管理を行っている。</p> <p>各自のカルテに記録を行っている。</p> <p>体調についての情報を家族からいただき、利用時も引き続き経過観察を行っている。</p> <p>利用開始時にバイタルサイン等、健康状態を把握している。終了時に変化があれば家族に状態を報告している。</p> <p>マニュアルに添って異変時は速やかに対応している。</p>
		<p>感染症や食中毒の発生予防を行っている。</p>	a)	<p>114 感染症や食中毒に対する予防対策、発生した場合の標準的な対応方法が確立されている。</p> <p>115 職員の健康状態についてチェックし、インフルエンザ等の体調の変化を日常的に把握できる仕組みがある。</p> <p>116 職員や職員の家族が感染症にかかった場合の対応方法が文書化されている。</p> <p>117 職員に対して、インフルエンザ等必要な予防接種について、費用負担を支援し受けさせている。</p>	<p>ISOマニュアルがあり、対応方法が確立している。</p> <p>マニュアルがある。職員は各自健康管理を行い、体調変化時は自己申告している。</p> <p>マニュアルがある。家族を含め異常時はマニュアルに添って対応している。</p> <p>法人での安全衛生対策 全員が対象。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着 眼 点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	6			<p>118 感染症や食中毒の発生予防・対応方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p>119 必要な手洗器・消毒薬等の設備機器等が設置されている。</p> <p>120 家族、来館者への手洗いや手指消毒等の呼びかけをしている。</p>	<p>施設全体での学習会 全職員を対象に年2回行っている。</p> <p>ハンドソープ、手指消毒器等を設置している。</p> <p>手洗い、うがい等を掲示板に表示している。 消毒薬等設置している。</p>
	7 建物・設備	施設の建物・設備について、利用者の快適性に配慮している。	a)	<p>121 建物・設備の点検を定期的に行い、問題点については改善するなど、快適性や安全を維持する取り組みをしている。</p> <p>122 備品の点検を定期的に行い、常に故障や不具合、汚れなどがないように維持する取り組みをしている。</p> <p>123 椅子・テーブル・ベッド等の家具、床・壁等の建物について、落ち着けるような雰囲気づくりに配慮している。</p> <p>124 談話スペースを配置するなど、快適に時間を過ごせるよう配慮している。</p> <p>125 利用者が思い思いに過ごせる工夫がされている。</p> <p>126 ベッド、ソファ、畳の部屋など休息に適した環境の配慮がなされている。</p>	<p>職員により定期点検を行っている。 電気関係等は専門職に依頼している。</p> <p>チェック表を使い、月に1回定期的に行っている。 必要に応じ随時対応している。</p> <p>家庭的な雰囲気になるよう工夫している。</p> <p>本人のペースで過ごせるよう、環境を整えている。</p> <p>運動したい人は運動ができるように、編み物、習字、囲碁、麻雀等の作業、趣味ができるように工夫している。</p> <p>個室静養室で休みたい人は休むことができるような環境になっている。</p>
	8 家族との連携	利用者の家族との連携を適切に行っている。	a)	<p>127 家族に対し、定期的および変化があった時に利用者の状況を報告している。</p> <p>128 家族に対し、サービスの説明をしたり、要望を聞く機会を設けている。</p> <p>129 家族との相談を定期的および必要時に行っている。また、その内容を記録している。</p> <p>130 利用者の状況など報告すべき事項は、必ず家族に伝わるよう伝達方法を工夫している。</p> <p>131 家族（主たる介護者）の心身の状況にも気を配り、必要に応じて介護支援専門員に報告している。</p>	<p>健康状態の連絡と同様に日々の変化、認知症の行動等、随時報告している。</p> <p>サービス担当者会議時等に説明を行い、要望を確認している。</p> <p>訪問時に要望等を確認し対応している。</p> <p>緊急時は携帯電話で行う。 必要に応じ送迎時口答、電話等で必ず伝わるように工夫している。</p> <p>送迎時等に把握し必要に応じ介護支援専門員に報告している。</p>

評価対象	評価分類	評価細目	評価	着眼点	特記事項 (着眼点以外の取組等)
A	8			<p><b>132</b> 家族の介護負担が過重にならないよう、家族がどのような方法で介護・介助しているかを把握している。</p> <p><b>133</b> 家族（介護者）に対し、必要に応じ介護に関する助言や介護研修を行っている。</p> <p><b>134</b> 家族が必要とする情報提供(福祉サービス、介護に関するテキスト・資料、地域の家族会など)を行い、必要に応じ、介護支援専門員など専門職、関係組織につないでいる。</p>	<p>移乗、立上り動作等緩慢になり、困っている時等、方法をアドバイスしている。</p> <p>適した方法を助言、指導している。</p> <p>介護サービス内容、ショートステイ利用方法、認知症家族の会等、家族が必要な情報を提供し、介護支援専門員に繋いでいる。</p>